

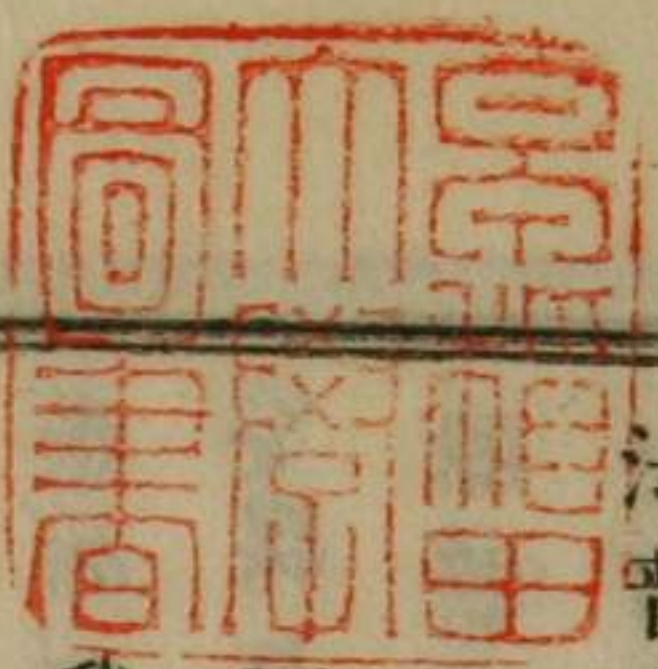
ムレル#ウキツリデレフ子太之王普



普王太子之妃アリトケ



法普戦争誌略卷之四



西曆一千八百七十年十一月三日即ち
我明治三庚午年十月十一日也



十一月三日法國政府の官員變更可否入札の會合○
去る十月三十一日巴里府内の人民激動し更に政
府を一掃し在務の諸職を變更せむこと被計り市兵
等隊伍を組み大に政府を迫られ故を以て今日府
内二十街の名代人及諸兵隊の向背を點檢せざる
は朝第八字より入札の會合始まり府内二十街悉く

出會して入札の席を開き又此入札を兼て朝第八
字より暮第六字迄と出を處しと定めたりと雖も終
日其事を議して終らば續て夜に至れども其變革可
否二途の向背未だ定まらば市中囂々として物
議殊更に譁ひひし○昨二日政府の一官員ロセホー
ル其官を辭し退職せり此ロセホールと云へる人を
近年頻りに共和制度を唱へて竊よこれを建むこと
を謀り那破倫在位中屢く其企を主張し種々國政を
誹謗し且つ帝を罵辱し其書籍を著述し又竊ふ帝
を暗殺せよと計りたる黨中此一人なれば那破倫在

位中之を入牢せしめて久しく幽閉しあり然るに去
る九月四日那破倫敵乃虜と成りある報を聽き此黨
俄ら激發集合し此機に乗して國政を一變しる流
輩なきとも此人政黨を昇つて後勳功なきとも別ふ
專任の職務なく只政官の列に加はりたるのみならず
しる去る三十一日の騷擾後其官を辭せり○同四日
昨三日政府改革可否の入札會合の爲め巴里府市中
二十街各部出席し其會終日終夜まで終り又海陸二
軍の入札も終りし今日其入札も可否の符號を
附し衆寡を點檢し公布すること左の如し(表中可の

符號あるものハ政府乃各官諸職を其儘ニ保護せん
と欲ひる者也否の符號あるものハ政府乃各官諸職
を一掃して變更せむと欲ひる者也(巴里府市中二十
街各部入札の表

- 第一街部 可一萬五千四百零三人。否八百十三人
- 第二街部 可一萬五千三百十二人。否七百零八人
- 第三街部 可一萬七千八百三十二人。否二千零八
十六人
- 第四街部 可一萬五千七百九十人。否千九百零三
人

- 第五街部 可一萬零三百四十八人。否千二百四十三
人
- 第六街部 可一萬二千六百五十六人。否四百拾一
人
- 第七街部 可一萬三千九百二十拾八人。否三百八十
五人
- 第八街部 可一萬零六百五拾二人。否二百六拾五
人
- 第九街部 可一萬六千九百五拾八人。否七百零九
人

第十街部 可二萬四千三百七拾人。否三千四百零

六人

第十一街部可一萬八千四百二拾五人。否九千百拾

四人

第十二街部可八千三百七拾四人。否四千九百七拾

人

第十三街部可一萬零五百三拾二人。否千九百二十

五人

第十四街部可一萬千零々七人。否貳千四百貳拾四

人

第十五街部可一萬千五百零三人。否千九百貳十七

人

第十六街部可九千貳百三十人。否貳百十五人

第十七街部可一萬四千七百四十人。否貳千三百六

十四人

第十八街部可一萬七千零々六人。否三千八百八十

貳人

第十九街部可九千三百四十四人。否三千貳百五十

七人

第二十街部可八千貳百九十一人。否九千六百三十

五人

次ふ巴里府郭外の住民入札乃表

第一街部 可一萬六千百十八人。否千零七十五人

第貳街部 可一萬四千貳百二十五人。否六百四十

七人

第三街部 可八千七百六十四人。否百八十六人

第四街部 可二千二百五十八人。否三十五人

海陸二軍の兵士入札乃表

可二十三萬六千六百二十三人。否九千

零五十三人

巴里府住民の入札可否甲乙表

可三十二萬千三百七十三人。否五萬三

千五百八十五人

通計可といはる者五十五萬七千九百九十六人。否といはる者六萬貳千六百三十八人。今日點檢れ公聞に依り共和政度は各官諸職を其儘保護するを可也と答ふる者其高既ふ十分れ九に居り爰に於て府内一統平然安居い。○余情々事情を觀察するに方今宇内萬邦中文明開化ふして富強を併有する者最も歐洲より多し就中法國の如きは其文明萬邦に轟き一大

強國なるは余等嘗て我皇邦に在て法國の狀態を傳聞し又其國史を讀て常々其國人材に富み文教武備の諸國に勝るるを羨む既久し然るに今其都に在りて其國に長技といはば陸戰を親しく視又其國に與廢社稷存亡の機至はる日逢へば其戰鬪に勝敗の如き姑く舍て言はば今其廟堂草野に狀態を觀るに國家に存亡且夕に逼り城門に外を無數に象敵充滿し日夜其隙を窺ふ時なきは諸民戮力同心専ら防禦に法術を施しへきに却て政府に改革を謀り遠く府内に人民を動搖せしめ兄弟鬩ふ鬩くの内亂を

醸成せしむ狂乎愚乎抑賊乎余等曾て其目的を解せし舉ぐ嘆次へし國の榦柱礎石は報國節義の心なきは弊風動んば波濤の如く激動し屢々艦船を覆ふへはむといふ余今獨り竊に嘆は文明開化の極又其及はば近らむらと哀哉○同七日昨日ウエルサイル城普軍乃本陣に於て歐羅巴の四大強國英魯埃以の諸宰相及普國宰相ビスマルク氏法國宰相ハーブル氏及使節千エール氏等會合して和平を謀らむといふに普其約を肯むせは和平の議再び破るに四個國の宰相空敷手を束ねて緘黙せり爰に於て

巴里府諸民の望み絶へ再び戦争は議決せり○昨日
和平の議破き府内更け防戦の備を爲は其部署大畧
左の如し三軍内外軍務總裁ハ大統領ゼネラルドロ
シユ之を司る

第一軍即ち巴里府城中の守兵をて

總督 ゼネラル ラントマントマス

歩兵都督 コロネル モシタキユ

此軍三百六十六大隊皆市兵也

騎兵大隊督 コロネル ギクシ

大砲大隊督 同 ヌーレセ

右は第一軍ハ巴里府城外周圍に砲臺と相應援して
守禦する兵也

第二軍ハ進撃戦隊をて

總督 ゼネラル ジュクロ

歩兵都督 同 ヲペルト

同副都督 リウテナン。コロネル ロルネ

大砲隊總督 ゼネラル フレブール

土工兵總督 同 トリピエ

歩兵監督 同 オルフ

此軍又別々三師とふは其官員部署左の如し

第一師三師中の進撃軍隊とハ

總督 ゼネラル イノアー

歩兵都督 同 ワルトン

大砲隊督 同 ユベシー

土工隊督 同 フーアー

歩兵監督 イギエー

第一部分隊

將帥 ゼネラル マルロイ

其一番隊 ブリガード

將 ゼネラル モルテノイ

其二番隊 ブリガード

將 ゼネラル パチユシ

第二部分隊

將帥 ゼネラル モウジユイ

其一番隊 ブリガード 民兵隊

將 コロネル ワラントン

其二番隊

將 ゼネラル フリース

第三部分隊

將帥 ゼネラル フランシヤル

其一番隊 民兵隊

將 コロネル コント

其二番隊
將 ゼネラル マリユース

第二師

總督 ゼネラル シヌート

歩兵都督 同 ヘリーピサユー

砲隊督 同 ボアツソンス

土工隊督 同 コルビン

歩兵監督 同 ビヨウト

第一部分隊

將帥 ゼネラル シユスビエー

其一番隊
將 コロネル ボンネー

其二番隊
將 ゼネラル シコント

第二部分隊

將帥 ゼネラル コント

其一番隊
將 ゼネラル ボビー

海軍軍令書
海軍軍令書
海軍軍令書
海軍軍令書

其二番隊

將

コロネル

ブーチエー

第三部分隊

ゼネラル

ムーシソ

其一番隊

ゼネラル

クーアチー

其二番隊

ゼネラル

ランクロ

第三師是と三師中の應援隊と

ゼネラル

エキセア

總督

歩兵都督

コロネル

ベルゼリ

砲隊督

ゼネラル

プランスト

土工隊督

コロネル

ラゴン

歩兵監督

プレワル

第一部分隊

將帥

ゼネラル

ペルマ

其一番隊

將

コロネル

フーリネ

其二番隊

將

同

マロユコ

第二部分隊

將帥

ゼネラル

マツター

其一番隊

民兵隊

ゼネラル

ハロン

其二番隊

將

ゼネラル

トウテル

騎兵大隊

總督

ゼネラル

シヤンペロン

騎兵大隊

同

ロスモンジュツク

其一番隊

將

ゼネラル

セルブロアー

其二番隊

將

ゼネラル

ラージン

胸甲兵隊督

アラベイズン

第三軍

總督總裁職大統領

ドロシユ

第一部分隊

將帥

ゼネラル

ヌーモン

歩兵總督

リウテナンコロネル

ベシン

第一番隊

將

ゼネラル

ダ九ジャント九

第二番隊

將

ゼネラル

シヤリエール

第二部分隊

將帥 水師提督

ロンシエール

第一番隊

將

コロネル

マオアネール

第二番隊

將

コロネル

ハンリオール

第三番隊

將

カピテーン

ラモットテネール

第三部分隊

將帥

ゼネラル

リュエール

歩兵督

モルラ九ウール

第一番隊

將

コロネル

ヒロルトロマ

第二番隊

將

コロネル

サンベロー

第四部分隊

將帥

ゼネラル

ブーホール

歩兵督 シユク

第一番隊 ジユムーラル

將 ゼネラル

第二番隊 カピテーン カンドシー

將 カピテーン

第五部分隊 ゼネラル コンアル

將帥 ゼネラル

歩兵督 同 ビアル

第一番隊 將 リウテナン。コロネル シヤシゼオン

第二番隊 將 コロネル ポリオン

第六部分隊 將 ゼネラル ユゲー

將帥 ゼネラル

歩兵督 エロイ

第一番隊 將 カピテーン ブライ

將 カピテーン

第二番隊 將 コロネル ブロー

將 コロネル

第七部分隊

將帥 水師提督 ポチユオー

第一番隊

將 リウテナン。コロネル ルメン

第二番隊

將 カビテーン サルモン

騎兵

第一番隊

將 ゼネラル ベルユー

第二番隊

將 リウテナン。コロネル ブロンデー

○同八月今日新聞中異聞奇説は書載はるべきものなり
○今朝第七字巴里府在留は英人及其他外國は人
三百餘人府内を退去せり○昨日市街入札は撰舉は
以て巴里府市中二拾街の宿老を新ちて撰舉せり其
人名多之を略し○同九日今日日誌を閲はるるは昨朝
英人巴里府退去乃時法の政府より其道路通行乃爲
め士官を一一之を送り出候しめたり此時普軍の前
營に於て其士官應接あり又普の士官之み語て曰過
日メツス縣開城は節我ら普の軍兵其兵器諸品受取
のふめ入城せし處法軍皆飢渴して甚る疲勞せり此

時大砲の類を皆馬可曳あせ々ふ此馬亦飢て其砲
曳くこと或能ハハ故とバゼーソンの開城降参ハ實
ふ究迫の故也又右メツス縣を圍める我ら普軍ハ今
皆里温縣襲撃の爲み發向せりと此上を我ら普軍只
此巴里府可亂入涉る此一事を止まれ程而して先其
郭外の二大寨を掠奪ハハ巴里府城に入ること難
き可非ハ遠るハハして府内を我が軍の有とある
一然ども願ハくも雙方とも最早生民ハ血を灌ら
して和平演ることこそ肝要な事と語とて○同十
日今日巴里府内の市兵ハ階級を別けて五等とハ即

ち第一級進撃隊(法語オロンテール)年齢ハ關係せ
自らハ戰鬥を望み出る市兵也第二級防戰隊二拾
歳以上三十五歳迄ふて妻子無之者第三級防戰隊三
拾五歳以上四十五歳迄ふて妻子無之者第四級防戰
隊二拾歳以上三拾五歳迄にハ妻子有之者第五級守
禦隊三拾五歳以上四拾五歳迄にハ妻子有之者右五
等の階級を以て城郭内外の守禦を配布ハ○同
日日誌中ふ曰伯靈府日誌云今普國ハ虜となル法軍
の將卒手負人を合し其數三十二萬三千人ハ登
りて記ハ普國軍費乃高今般軍の始め七月十九日よ

り今日迄其高拾五億百萬ターシ九也と今若此軍猶
 三個月も續く時ハ普國拾年の弊を醸成へしと録せ
 記○去る九月十七日巴里府籠城以來府内乃住民猫
 を殺して食し其皮乃數二萬七千五百三拾三枚也と
 オテルドビル館に書出せり而て今猶府内も蓄ふ所
 の猫其數大略二十五萬頭ありと附録に○巴里府内
 犬猫の屠者此程府内も犬猫を屠者出來る其肉を賣
 れ店を開き又兵卒の屯所も専ら犬猫屠りて食
 せりと云又巷説を聞くに今府内猫一頭の價大略八
 フラン(即ち我ら一兩三分計なり)と余前條の事を爰

み記はれを巴里府内究追はれを察知せしめむら爲
 たり○同十二日今日府内異聞あり此節巴里府内物
 價沸騰日誌中も書載はれこと左に如し其標目
 鹽漬の豕肉一斤の價十六フラン。我三兩一分
 牛肉一圓無し
 馬肉一斤の價二フラン。我一分二朱
 駟馬の肉同六フラン。我一兩一分
 鵝一羽廿五フラン。我五兩
 鶏同十五フラン。我三兩
 鳩一番十貳フラン。我二兩二分

カラクン鳥一羽五十五フラン。我十一兩

兎一疋拾八フラン。我三兩三分

鯉一尾貳拾フラン。我四兩

鶏卵拾貳四フラン六。我三分三朱

葫蘿蔔^{ニンゲン}一束二フラン二五。我一分三朱

サヤ豆一斤五フラン。我一兩

牛酪一斤四拾五フラン。我九兩

同鹽入一斤拾四フラン。我貳兩貳分

此程府内食料の物品其價沸騰昔日の二倍三倍或ハ五倍ノ登ルル也且其買ハ金ト成ルル其品甚々乏

し故ニ附録ニ云昨日或ハ豪商府内の蓄獸園に於テ野猪^ク子二頭ヲ求ム其價一百五拾フラン(即チ我三拾兩也)ト實に人ヲ耳目ヲ驚カセタ○一昨日巴里府内ニテ發シ一氣球普軍の陣中ニ墮テ其乘組人機械共に敵の手中ニ入リテ此氣球中ニ多く使鳩を乗せらるト云○同拾三日今日府内市中ニ再ヒ令一テ二拾五歳以上三拾五歳迄ハ市民多ク其産業地位ヲ論ズ及悉ク守兵隊中に組入ラレタ旨ヲ布告セタ並ニ防戦ハ時手負或ハ戦死シタル市兵ヲ家族扶助ハ儀ハ政府ヨリ沙汰有ラレタ旨ヲ布令セテ○又日

誌中ニ普國今般生捕及分捕の關乏なきこと城録ぞ
即ち法國の旗數流々砲數拾門兵士三拾餘萬人士
官數千人ゼネラル數十名マシヤル數員及法帝那
破倫を併せて其掌中ニ入り而て巴里府城も亦旦暮
ニ陥ひらむと云ふの勢なきハ今次普軍の分捕ぞし
諸品一も關乏あることなき實ニ法國未曾有の大敗
軍也と云○同十四日使鳩の報告十一月十一日ツ
ル縣發去る九日よりオニスアン縣ニ於て二日の戰
争ありし處昨日我法軍大ハハ勝利を得生捕千餘人
大砲二門夥しき兵糧輜重車及二十餘筐の兵糧器を

分捕せり又去る九月ハハクールニミエール郷ニ於て
嚴しく戦争したる此二日の間ニ味方の損亡大畧二
千人なれども敵軍の死傷莫大也と云右乃報告書を
使鳩の首頸ニ結ひ付々々昨十三日の夕四字に來れ
りと此報告を傳聞し々府内の人民大ハハ勇めり○
令朝總裁職ゼネラルドロシユ市中ハ示令の張紙を
出せり其大意今法國危急實に且夕ヲ迫るハ衆宜
く其身を抛つ々國ヲ報復へき也と其文章長きを以
て爰に略述○今日再び市中人民貳拾五歳以上三拾
五歳迄の者を戦隊ニ取立へき旨の布令あり○來る

十五日より巴里府諸道の門戸暮五字よ京閉塞次へ
き旨の示令あり按れり此節最早短日あり夕五字
ふ於て日既に没し昏黄なる故なり○今猶普國の間
諜巴里府内ふ潛居せり一昨夜オペラコミック(劇場
也)の近傍ふ於て一人の婦女を捕へたり是即ち間諜
也と云○此程巴里府外大いに疫疾及痘瘡流行し
普軍是ら爲ふ鬼簿中に入流者日ふ夥しく又巴里府
内ありて大いふ流行傳染し市人兵卒死流者亦
夥し○同十五日去れ九日オウシアン縣の戦鬪あり於
て普軍の死亡大略貳千五百人内五拾七人の隊長士

官也又貳百零貳人あり小長士官あり猶又此他ふ四百
五拾人あり手負あり○ミトライユース砲(法國近年新
製の奇砲也)方今巴里府器械所あり於て每一週日と製
造流る所八門及他に大砲八門なりと云○此ミトラ
イユースと云砲を大砲十貳門より三拾七門を組合
せり製流る處の砲とし今猶大砲五十門を組合せ
り造りたるミトライユース砲あり此三十七門を組
合せありミトライユース砲を一ミニユート間と五
回放發しり一百八十五丸發射流るハ五ミニユート
との間に九百二十五發の彈丸發射流る奇砲也通

常々大砲を五ミニエートの間ふ只一回彈丸を發射せり○同十六日日誌中異聞奇説をし又昨今郭外戦争の報知をし○普國伯靈府の十一月一日附乃日誌漸く今日府内より來り其書に云十一月一日メツス縣に籠城したる將帥總督官バゼーン拾五萬兵と共に普軍に降参し開城して即日普國に到着し午後三字の半法帝那破倫に面謁せんと其他多く當日の狀態を書載すと雖も皆遙る以前の事をいふ咸く之を記せり○十七日(巴里府の籠城今日既に六十日也)日誌中奇聞なし近日府内靜謐也竊に仰て廟堂の事

情を察し俯し草莽に状態を觀るに衆心只和戰乃二途を迷ひ或は出て勝敗を決せんと云ひ或は屈して和平を謀らむと云ひ億兆更に其方向を知らず惟ふに政府既に屢々其機を失ひ今其目的を失ひ又食糧の諸品日々缺乏し貧民究極して迂衢を叫び道路の犬猫屠り食はる其困窮實に知れざる也當時政府の處置之を奈何にせや○今夜余諸機械博覽講義局に往き其講義を聞くに今般新式の元込め始めを鑄造成り今日其利巧な講義をて此大砲を軍務局にて試験せしに二千メートル即ち我十九丁の距離をて二

つれ弾丸を同一の穴に射入しちて其精巧近世未曾有の奇砲也と○法國の兵器之富める大砲にミトライユースあり小銃にシヤスポーあり奇巧實に驚愕にふる然も其人心憤發の氣力なき是又慨嘆に堪へざる也○同十八日普國伯靈府十月二十八日の日誌を參輯する府内日誌に曰去れ十月二十八日メツス縣開城法軍降參れ日普軍乃總裁職ヲランスロヤールフレリツキヤル、其將帥兵卒を引率して一同メツス縣中に入り法將バゼーソンの將卒を受取り悉く之を虜とふて其將卒及大砲左

れ如しマシヤル三名ゼネラル五十名オビシエーとコロネル以下六千人歩卒十七萬三千人大砲四百門ミトライユース數門を組合せたる奇砲一百門此度此メツス縣に城を圍むる普軍を七軍隊にして其數二十二萬人なりしを開城降參乃後其城に入り守衛に兵二萬人也他を皆巴里府攻撃及法國諸縣を襲撃せしむるに云○今普國の虜と成る法國の將帥及士卒の數左に如しマシヤル四名バゼーソンの氏マクマオン氏ルズーフ氏カンロベル氏ゼネラル一百四十名オビシエーとコロネル以下一萬名兵

卒三十二萬三千人此外法帝那破倫を生捕とふも
〔右十月二十九日の算計也〕此度は戦ひハ法國未曾有
の大敗にして巴里府城斯の如き劇烈は攻撃を受
し事法國の歴史中未だ見され所也○同十九日昨十
八日布令ありて巴里府市兵隊の諸士官及市兵は
給金を定め渡さると其大略一個月の俸金大隊長三
百三十三フラン三十三散サンテム〔我六十六兩二分余〕指揮
官及同副官二百三十六フラン十散サンテム〔我十四七兩余〕小
長及副官醫官百六十六フラン六十六散〔我三十三兩〕
伍長百五十フラン〔我三十兩〕指揮官長を別々月々五

拾フラン被受取れ也市兵隊一統ハ一日一フラン半
〔我一分と二三百分位〕右に定めを府内在役中也而て
城外に出る野陣はハ諸食糧等皆政府より給はれ
るもの也

一千八百七十年十一月十九日 巴里府

○同二十日今日新聞奇事なく府内殊に静謐なり又
郭外戦争の報知なし○巴里府内は貯藏の瓦斯缺乏
し石炭固より乏し故に此兩三日以來石腦油を以て
燈火に給液れハ市街夜中朦朧あり又各家夜拾字半
より盡く其燈火を滅液○同二十二日日誌中新聞奇

事なし○寫眞の書翰今次籠城中法國別府ツ―九縣
及其他諸郡縣より巴里府へ送る急報及緊要の日誌
杯を之を集めて薄き紙に寫眞して縮小し成し其量
目及嵩を減して使鳩の首頸及羽翼の下に結ひ付る
之を放てり巴里府内へ諸縣より送る報告及日誌を
多分此寫眞書翰也今般鳩密使をとり大いに便利
を得人始めて其緊要を驚く○今日より政府貯藏の
鹽漬獸肉を市中に分配して市民均しく鹽漬の肉を
食ふ余亦鹽漬獸肉の味を知る○同二十三日〔我閩十
月朔日也〕今日城外砦寨の前を在る市兵戰隊中の者

四人手負ひたれハ之を府内へ送り來せりと云○日
誌を閱るるに巴里府在留南亞墨利加ブシ―九國
の國使府内を退去せむを欲し過日以來兩國政府へ
其事を談判せしに普軍の本陣より未だ其免狀來ら
ず然るに此度推て府内へ出て普軍の前營に至り其
通行を乞ひたれハ此陣の首將直ちウエ九サイ九
城の本陣に其事を告たり宰相容易く之を許容し速
らみ軍中を通行せしめたり直ち倫敦府に向つ
て發せりと云○同二十四日去る十九日ウエ九サイ
九城の普の本陣に在る宰相ビスマルク氏より巴里

府在留の米利堅合衆國の國使ワスヒユリエン氏へ
 一書を送る其文ふ曰十月十九日ウエルサイル縣發
 過日ハ御書面中シイナール氏出行乃義表向ハ談判
 に不相成様致仕度右懸合の義法國外務宰相ハ
 ブル氏より貴方ハ依頼せよ候段御通達乃貴翰ハ
 令入掌候此程巴里府内を發したる一氣球不幸ふし
 て我ら軍の屯せる陣中を墮たせし軍令の通り其人
 を虜と致し候此後速も同様皆軍令を從て處置致し
 ぬし此段貴方迄報知致し候間乍御手数數御序を法國
 政府に官員中御懇意に人へ御傳達可被下此段御頼

申候頓首

一千八百七十年十一月十九日

右に書翰ハ直ちに右合衆國國使より法國政府へ傳
 達しをせし今日政府之を日誌に載せし公布せり○
 同二十五日今日市中布令ある明後二十七日日曜日
 より諸道の門戸を一切之を閉塞して其出入を禁止
 し而て其出入を得るもの多し只兵隊築城家軍用の諸
 職人及運輸の馬車乃と

一千八百七十七年十一月二十五日

巴里府總裁職名

○同二十六日日誌中新説異聞をい爰に一小笑事あり今日市中警衛の市兵或る豪商の家に至り其竊に貯藏せる食料の物品の有無を検査せるに其家の窖中より一千七百十四個のジャンボン〔鹽漬の豚肉也〕あるを見て直ちに是を官に告げしに其主人罰せられたりと此程市中の食料に諸品缺乏せるに就て斯の如き一小事甚る多し○近日府内の食糧は少量の鹽肉及鹽魚のみより鹽漬せし馬肉を得るも甚難し鹽肉及鹽魚の味は甚佳なり○同二十七日今日余コンセルワトワールデザルメチエールと云へる

館に往く此館中より蒸氣車蒸氣船風車氣球水車天文測量器地中検査器及其他の諸器械並に諸種の時計磁石織物の器械耕作の諸具に至る迄悉く其品類備せし歐洲の器械と長とると實に人の眼目を驚かせぬ阪路市街に過り其状態を觀るに今日日曜日なほを以て途上散歩遊行の人殊に衆し又屈竟に男夫等美服を着し其妻女の手を携へ徐々として逍遙に遊者幾千人を以て知らぬ此輩皆今法國殆むに敵に掌中へ陥らむと傾頽危亡旦夕を逼り其危き實に朝露の如くなるを知らぬに似たり巴里府

人の虚飾を専らとし言語を巧くし内には報國の
 赤心なく常ふ國事を罵し其を危急に莅む其國
 報顧も流る如し其薄節又我徒の眼目を驚愕せし
 むる也惟ふ今法國の兵器機關を精好にして實に
 善美を極むと雖も廟堂に人材なく草莽に節義なく
 威武傾頽して梟敵に當るべき正氣なし嗟く國夫
 奇器ありと雖も人材なきは亦是何奈とを以
 然こと能く流るはみ○同二十八日昨今市兵隊多く
 郭外に出陣又今夜巴里府總裁職ゼネラルドロシ
 ュ府内の兵隊督卒して郭外に出陣せりと報は是近

日一戦を起さるめなれば然りとて府内の兵力大に衰
 弱せしと思はゆ○市人會合集議所此程府内處々に
 市人の會合集議所設る多人數會合し各々其席に
 昇りて當世を談し持論を吐くこと集議院に似るや
 今夜余此集議所に至りて聞くに市人頻りに歐羅巴
 各國の事情状態を論せり○今日市中に布令あり今
 次籠城中府内乃人民舉て市兵隊と成り依り過日
 より此市兵一人は毎日一フラン半(我ら一分一朱位)
 を與へたる今般又其市兵の妻子に一日七十五サン
 千ム大略(我ら二朱余也)を給與はし是物價沸騰

よ依る貧民の活計を佐く爲さる。○同二十九日今
曉三字頃よ京郭外に烈しく砲聲聞へ終日砲戦あり
○今日政府よ京市民へ布令あり即ち昨夜よ京府内
の兵隊郭外より出る布陣し處々に戦争始まると今曉以
來烈しく砲聲を聞く而る巴里府總裁職ゼネラルド
ロシユ陣頭に在る其指揮を司れり又今朝右總裁職
より政府に送る京報告書に郭外に各陣部署既に成
りたる大に戦鬪が開きたると記し。○今夜余る知己ある
コロネル官シスピオリ氏一書を送るる今日の戦
争其部下兵士の損亡二百餘人あり其内討死方ピテ

一員リウテナン三名兵卒五十人より九十餘
人の敵の虜となれ京又手負殊に多しと云其他今日
戦鬪を數大隊其死傷未だ詳らなると。○同三十日
今曉三字頃より郭外大に砲聲轟き終日絶へ一夜に
到る止む。○市中各家燈火に用ゆる瓦斯を絶は巴里
府内石炭追々缺乏するを以て瓦斯を用ゆること逐
日減少し今夜より府内の人家其室中に燈火に用ゆ
る瓦斯を一切禁止し各々燭燭以て之を換へ只市街
途上の燈火のみ此瓦斯を用ゆる然るも此燈火も過
日以來大に其數を減し只僅に路上を照し行人馬車

乃往來ふ便を得せしむる乃と府内乃究迫知るるし
○去歲十一月十六日是國都府馬德里府は日誌漸く
今日巴里府に來せし其書ふ曰是國曩に昔は一太子
ホーエンゾーレン侯を國王と立てむとし其約破
せたる後ち國民洵々朝野の衆議一定せし故茲以て
今度は班牙全國諸郡縣の主宰其數三百四十五人會
合公議し各々入札して國王を定むべしと云而て本
日會議あはて其入札左乃如し第一アオスト侯即ち
以太利亞國王の一子也之て立てて國王をらしめ
と欲汝依者一百九十三人第二各郡各縣とも共和制

度を建むことと謀る者六十三人第三共和合衆の制
度を建むことを望む者三人第四モンパルシエ侯
ハ法國ルイ十八世ヒリブ王の長子也之て立てて
國王をらしめんと欲する者十七人第五アスパル
テロー氏即ち是國は宰相之を立てて國王は坐に登
らしめんと計る者八人第六アルホンセ侯即ち葡萄
牙國王の一子之て立てて國王をらしめんと欲する
者貳人第七白紙の入冊十九人内十二人を女王以前
に在位せし王の後胤立てて國王をらしめむこと
を欲するの徒な哀爰に於て此入札の衆寡を檢する

に三百四十五人の内百九十三人をアオスト侯に立
ててを望む者なきに候と立てて是は國王を
くしめむといはれしに衆議決定せり

○十二月一日(我閏十月九日也)軍中報告日誌に曰昨
日終日戦争よて雙方共々死傷多かりし夕刻に至
り普軍少しく先鋒は屯陣を引退ち之に依り法軍
續いて此地に進撃し普軍大々敗れ手負死亡
を打捨退散せり此時法軍は大砲二門を分捕し且
七拾二人を生擒いと雖も味方の死傷亦尠なり○
今朝總裁職ゼネラルドロシユより巴里府の軍務宰

相スミツ氏へ報復する書に我軍隊昨日來屢々戦勝を
奏し敵軍許多は死傷被捨退去せしに依り我軍は昨
今進撃して敵押領地を轉陣し諸軍殊更に振へり
○同二日昨日ハ終日大戦争なく法軍は處々
屯陣配備し終日敵味方の死亡を埋葬するのみ○今
日數多は手負被車り乘せ府内乃病院に連せ眠れり
○今日政府ツルル縣内務全權ガンベタよる報告
を得る其文に曰過日オニスアン縣は戦争後大
戦ふ今法國郡縣の北部シヤキヨンシユルセーン
に地み於る普軍八百人法將ガリバリヂー氏乃策よ

法普軍等記 卷之四 十月二十七日
陥り盡く戦死及生擒せらるる事と云○日誌を閲き
るに去る十月二十七日メツス縣開城ハ節法軍ハ總
計拾三萬五千人にして此内手負の兵貳萬五千人又
外に壹萬人ハ陣中病者也精兵總々拾萬人是步騎砲
三兵の合數也と又メツス縣中ハ馬咸く食ひ盡さる
を以て騎兵隊及砲兵隊の如きハ精兵利器ありと雖
も是を用ゆる事と能はぬ終に城中食盡き彈藥盡き
て咸く開城降参し將卒共々生擒せられたると此城
將マシシヤルバゼーン氏メツス縣に入つて籠城せ
る事八月十七日よりして十月二十七日まで籠城都て

七十餘日也○同三日日誌中ハ昨日戦争の状態を録
せぬ今朝總裁職ゼネラルドロシユハ報告書ハ云十
二月二日夕三字十分陣中より發源今朝拂曉普軍法
ハ先鋒將ゼネラルジュクローの陣に襲撃し戦ひ極
めて劇烈也我軍ハ敵襲を防ぐに豫備既々整へり
毎隊各々其要害ハ據り數十門ハ砲を一時に連發せ
る特々其戦地ハアブロンノジャンヘーサンデリー
グラマルサンムール及シヤラントンハ諸寨城間に
して此諸寨城より劇く砲發し敵軍ハ進撃ヲ防ぎ
る普軍の歩兵多く森林中に埋伏せり此襲撃始まら

や否やゼネラルイーノアー及グシマントマスル二將
 ハ麾下の市兵三拾三大隊を操出し烈しく抗戦せり
 時々ゼネラルイーノアー及リュエーの二將も其隊
 を指揮し烈しく戦ひし由なり○又報告に十二月二
 日夕五字三拾分ノジャンル陣を發し敵軍我先鋒隊
 へ襲撃し三字間敵の進撃を受たりしり烈しく之を
 防ぎ終に敵兵を追ひ退くたり今日に戦争兵氣甚振
 ひ諸軍大に戦功を奏しふれとも味方は死傷又寡
 あり

一千八百七十年十二月二日

總裁職ドロシユ

右本書の寫之を布告ははるもの也

外務全權兼内務職

ハーブル

○昨日戦争中先鋒の勇將ゼネラルイーノアー敵乃飛
 丸の中り右脚を打たれ殊に重剣を以て之を病
 院に送り療養しむるも數個所を疵を以て竟
 る今日死去せりと云今年六十二歳也○此度の戦争
 ハ近日の一大戦として敵乃死傷莫大也法軍も亦
 死傷多しと雖も政府秘して著ははる昨今府内に運
 輸する手負數千ありて此時に戦死虜傷大略萬餘と
 云然しとも未だ詳らざるなり○同四日昨日政府各

員諸宰相より巴里府守禦の總裁兼大統領ゼネラル
 ドロシユ氏に贈る書に曰此三日以來余輩公の舉動
 及び軍威の振起るを感動し余公と從軍安危を
 共にせむと欲然と未だ其志を果し能はし唯
 公の威武揚るり我國威振起せむことを希ふの
 今日のみ事只公の勝敗一擧にあふの
 余等偏に公の勳功を感謝するの
 次は我軍の勇將
 ゼネラルジユクロー氏及其他の諸將且麾下の諸勇
 士に感謝するを以て其旨意を宜く傳達あふむこと
 を希ふ今法國共和政堂の希ふ所を只公の威武と諸

將の勳功と茲以て國威振起の期を仰く耳○今日日
 誌中新報多しと雖も頗る繁雜なるを以て今爰之
 を記載せしむ○外國諸日誌中より魯西亞土耳其格に向
 以て戦端を開らむと謀り其勢甚ち切迫なりと云即黒
 海一條に爭論也○同五日普ル生擒の士官兵卒四百
 人をワグセンの寨城を奪はせしむ○去る二日に戦争の
 軍より府内に送遣せり○去る二日に戦争の
 將士及討死如左ゼネラルシウ九氏脚中に飛丸を
 受て病院より竟に死しゼネラルラドレイ氏に砲
 彈二發を受て即死せりゼネラルバキユール氏及ボ

ワツソンネー氏手負て病院に入れりコロネルガラ
ンセー氏討死同官ビリエー九氏手負同官ビネラ九
氏及戦隊乃將士多く討死せりとゼネラ九死傷四名
一人ハ討死三人ハ手負コロネル官死傷三名一人ハ
討死二人ハ手負以下ハ將士多其死傷分明なり○
今夜余ハ知人ヲ依リウテナンコロネルハスピオー
氏余ハ寓ルル學ヲ來り幸ふ面會を得て此程の戦鬪
事情を聽タリ此人此度爵一等を登テコロネルとな
シテ去る廿九日ムラサケ郷の地ニ於て劇戦せし
此時部下ハ士官兵卒等の死傷虜都て二百八拾人内

ニ退軍し此地都て我普軍の所有と成シ茲此事最も
將軍の方略中緊要の事件なりむこととを察して態々
急使を以テ將軍閣下ニ報ル也然シとも將軍信偽
監察のふめ一官士を遣つテ虚實を糾はむことを欲
せハ余速ニ其處置を爲し公ハ使官我軍中往來通行
ハ儀支障無き様周旋致す也恐懼頓首百拜十二
月五日○同刻巴里府總裁職ゼネラルドロシユ右の
書に返翰して曰我ロアー九縣の法軍一昨日悉く退
陣してオニスアン縣ニ入り其地都テ普軍の所有と
なれりと將軍ハ鴻意今之を余に示汝余深く公の厚

惠を謝次而て將軍余み示はふ今一官士を其地と遣つゝ信偽を監せしめむと欲せし將軍其往返の道路を導らしめむことの厚意を以ては然とも余今我城中の一官士を遣はて信偽を問はむことと城願はひ謹むゝ此意を答ふ恐懼頓首百拜十二月六日右の報告今日敵軍より來着せり然れとも其事曾て法國の方向に關係せし我府内の軍に故障ある事なし今日此事身命を抛ち血戦はるゝ外他事無し

一千八百七十年十二月六日

法國政事堂各員諸職連名

よ退軍し此地都て我普軍の所有と成せし此事最も將軍の方略中緊要の事件ありむことを察して態々急使を以て將軍閣下へ報はれ也然とも將軍信偽監察のふめ一官士を遣つゝ虚實を糾はむことを欲せし余速に其處置を爲し公に使官我軍中往來通行に儀支障無き様周旋致する也恐懼頓首百拜十二月五日○同刻巴里府總裁職ゼネラルドロシユ右の書に返翰して曰我ロアーヌ縣の法軍一昨日悉く退陣してオニスアン縣に入り其地都て普軍の所有となれりと將軍は鴻意今之を余に示次余深く公の厚

惠を謝返而て將軍余み示はふ今一官士を其地へ遣つる信偽を監せしめむと欲せし將軍其往返の道路を導らしめむことの厚意を以ては然とも余今我城中の一官士を遣はて信偽を問はむこと城願はる謹むる此意を答ふ恐懼頓首百拜十二月六日右の報告今日敵軍より來着せり然れとも其事曾て法國の方向に關係せし我府内の軍に故障ある事なし今日此事身命を抛ち血戦はるを以て外他事無し

一千八百七十年十二月六日

法國政事堂各員諸職連名

按汝流の右に報告其虚實固よと敢て知能可あり汝姑く其信偽を置て只當日兩軍間の情實を觀察し汝は是全く普軍將帥に方略を知らむこと推て知能可し○今府内の諸郡縣よと民兵の來援を俟ち口々に兵を以て第一に援兵とし此援兵不日ふ敵後を追て府内を應援せむことを希望汝流也然流ふ今此兵咸く敵軍に壓倒されて遠く陣を舉て敗せると言はく全く府内の望と絶へ英氣一時ふ衰へ其抗力從はて減せむこと必せと恐らく普將に策略を愛ふあらむら若又今法將一使を遣はて其信偽を問はく徒

らと時日を費はしめ更り抗氣を挫らむら爲さらむ
惟ふに法將ドロシユまた爰を察して此返翰を贈り
たはちらむ儲ドロシユ氏其事件を直ちふ府内ふ公
聞し勉めて防禦の力勢を強大ならしめむるは血戦
の外他事無き旨を載せたる一紙を副へしをのち
む良將の雄略其旨深し○同八日今午後余市街み道
遙く事情を視るふ府内平定靜穩かり飯路王城乃
前を過るふ市兵七大隊の出陣はるを見ふ士官に其
數を聽くふ三千五百人也と云○去る十一月二十八
日九月三十日及當十二月一日の戦ひは法軍の死傷

を日誌に載はると左の如し將帥及士官合せて討
死七拾二人手負三百四十二人三兵合せて諸兵卒は
討死九百三十六人手負四千六百八十人總計五千零
二拾二人討死の將卒千零八十人手負の將卒五千零
二十二人此日誌中唯死傷の數のし記しと就虜の數
を記せはるは其虜數未だ分明なくはるはな京○同
九日方今普國有はる軍艦諸船乃種類を附録はるは
と左の如し普國所有の軍艦フシガットと稱はるは螺
旋蒸氣の大軍艦三艘即ち第一艦をギョームと號は
大砲二十三門一千百五十馬力第二艦をフシデリツ

キシヤルくと號は六門九百五十馬力第三艦
 をクロンプリッツと號は六門八百馬力第二艦
 軍艦二艘即ち第一艦をアルミニューと號は四門の
 大砲を備へ三百馬力第二艦をアダルベルと號は三
 門の大砲を備へ五百馬力コルベツトと號は軍艦
 五艘あり各二十八門の大砲を備へ四百馬力の蒸氣
 艦也其名稱アルコナベネタへルタエリサベタガゼ
 ルと云コルベツトポンラと號は蒸氣艦四艘每艦
 十七門の大砲を備へ二百馬力其名稱オーギユスタ
 メジユスニソフビクタリヤと云別と三艘はモニト

一九と號は軍艦あり是ハ亞墨利加製也シヤル
 フと號は小船十艘每艦三砲を備へ九十馬力の蒸
 氣艦也第二等シヤルーフ艦十六艘每艦二砲を備
 へ六十馬力の蒸氣艦也蒸氣火輪の小艦數艘あり其
 數未詳兩輪船は軍艦一艘あり其名ハルベロースと
 號は其他又四十三艘の兩輪の蒸氣艦及以數多の他
 船あり其數未詳帆船又數艘ありテチーゼヒオンニ
 オベヘタロビーミユスギト等の如し其他又小帆船
 數多あれとも其數未詳右所記の船艦ハ最も有名な
 る船艦の概數にして其他の小船を至るまで咸く之

と枚舉汝能ハハ○市中への布令

一此度軍頭ニ於て討死セシゼネラルシナウルト氏
の葬式今日アンワリドレ寺院ニ於て官よリ之
を執行セリ事依て軍務全權宰相其主務ニ任
次事

一千八百七十年十二月七日巴里府

政府各員諸職七名

軍務全權　ゼネラル　ルフロ

○同十日生捕士官の互換昨日大統領ゼネラルドロ
シユ郭外に陣中よリ急紙を軍務宰相ゼネラルル

ローへ送てて曰余仄ら聞く此度生捕りて府内に
送てたは普軍士官四名此節府内通行中我府内の人
民これに對して不都合に所業も有之歟と相聞へ甚
以愁嘆に至り也依之右四名士官早急當陣へ送遣
せらば可し然れ時ハ此四名を普軍中ニ送り其軍
捕ハせらる我國の士官四名と互換汝可しと云贈を
り爰ニ於て速ニ普方四名士官を府外に陣中ニ送
遣せし昨日政府よリ市中ニ布令汝る所乃日誌中
に記せり○此節府内貯藏の瓦斯彌々乏ふし市中
諸道の燈臺ニ石腦油を以て瓦斯ニ代用せり○同十

一、日布令の目誌中ニ曰曩ニ十一月十二日巴里府内
を發せし所乃一氣球普軍の陣中ニ墮ち乘人共可生
捕と成り此氣球中に數翼ハ使鳩を乗せたり然亦
に此使鳩一羽昨九日暮五字巴里府内ニ皈來せし
其翼裏ハ一紙ノ報告書あり其文ニ曰十二月七日法
國ルアン縣發汝當縣普軍ハ爲ニ掠鹵せしむたり
而ニ其軍今シヤルーフノ縣ニ向テ進撃せし者又
オルシアン縣此程狼藉者乃爲ニ掠奪せしむたり又
ロアルル縣乃兵大ニ敗走せし今日乃勢ハ敵に向
以更ニ抗抵し其威力なく又之ヲ防く可きハ手術を

一云々○同日夜七字半第二ニ使鳩府内ニ歸り來し
其翼裏ハ一紙ノ書翰あり是法國別政府ツルル縣
よリテ報告書也其文ニ曰十二月八日ツルル縣發汝
今又不幸敵軍襲來しオルシアン縣ハ普軍ハ爲ニ掠
奪せられ敵軍彌ク進撃既ニ當縣近郷ヲ亂入し今僅
ニ二里ハ距離ヲ隔つるに内務全權ガンベタ氏當
縣を去てボルドウの地ニ退去せしルアン縣ハ早
ク敵軍乃有とふルシヤルブール縣ハ屢ク襲撃せし
む又ロアルル縣の兵都て退散し再ハ抗抵すへき
氣力なし諸民大ニ疲弊し街野都て狼藉し盜賊

更に多く且食糧肉類一切缺乏し諸方都て飢餓に迫る乞ふ府内の諸民に告ぐよ巴里府乃至法の地に非以衆宜しく時宜に監考候へしと右の府内日誌社中より送る一書也按次は右貳通の報告書に皆普軍の手よ取出る所は偽文にして府内の人氣を貶し開城に義を速よせしめむことと謀謀せる謀書と察せられし也○今日日誌中より曩よりメツス縣籠城中の事實を記載せしメツス縣の籠城は八月十七日始まり十月二十九日開城に籠城都て七十日此間手負及陣中病氣乃兵病院に於て死に候もの其數八月十九日

より同三十日迄の間四百九十八人九月中二千零九十四人十月中千五百貳十二人總計四千零八十四人也と録し○同十二月過日法軍より生捕の普軍士官四名を送り法國士官四名と交換の義を乞へり昨日右代りの法士官四名府内より販來せり此四名は士官を過日オニスルン縣に於て生捕せられたる所は士官也と録し右四名は士官に皆スーリウテナンフにて兵隊士官中微賤は小官として去る一日二日の戦争に虜と成りし輩也戦闘中敵味方の間より生捕の士官を交換候ること我邦未だ其例を聞らざる也惟ふと

圍碁投石中と雙方獲ふ所の黑白石を交易ひふ均
し是又一奇の便法也○昨日府内麵包の商人皆其門
戸を鎖して商賣せざり由市中と傳聞し市中一時大
ひと動搖し府内の穀類既ふ盡ちりと巷と叫ひて其
騷擾最も甚し○政府よ京市中への布令籠城麵包の
義ハ曾て其分量の定則を置ことなく衆乃望ふ仍々
之を商なハしを故よ市人宜く其意誠體認して動擾
はるごと勿れ政府貯藏乃穀類よ至てハ更ふ缺乏の
憂ふし○同十三日昨日府内乃布令巴里府内貯藏の
石炭既ふ缺乏と諸砲器鑄造ハ石炭乃限り薪炭

を代用は可ららば仍て府内の人民石炭貯藏の者あ
らハ政府よ申出流へし政府定價を以て之を買入流
ふき也若し違背竊蓄の輩あらそ夫々罰金罪科ふ處
はへき也右の裁事を政府官員市街督務職及諸職技
全權宰相よ委任は流事

一千八百七十年十二月十一日

政府諸官各職連各

○今日又法國別政府は轉移は事あり籠城中別政府
をツル九縣よ定めたり然流は普兵諸方郡縣を進撃
掠鹵して勢は彌々逼迫を故を以て此ツル九縣の

別政府を轉じてポルドウ縣を移せりと云○同十四日今日より府内を焚燃はるる石炭なし每家皆木片を以て之を代用し唯政府の諸器械所のみ石炭を用ふ故に市中木片を商ふ店の門前人民群集市を爲す○今曉三字アンドン地方より一乃氣球を登りしちて内を政府の密使一員之に乗るツル縣迄發向せし氣球中を府内昨日迄の書翰を積り送りてと云○今府内は多くの屠者犬猫鼠の肉を屠り賣れり犬猫の肉殊に價ひ尊く又一鼠の肉其價一弗闌余みしと我金貨の一分は當りて○同十五日軍務宰相

よは市中へ乃布令今般戰爭中我將卒敵の虜と成て普國に在り其親族巴里府より音信消息を爲らむらため書翰送答の義は法政府より敵陣へ應接の節之をふはること出來へき義を市中に唱ふる者ある由風聞あり是を以の外は義言語を絶せは都を籠城中に敵國幽虜に留る輩へ書翰送達の義一切嚴禁也其旨篤と體認はへく若し違犯は輩ありは直ちに捕へる軍律の處はるべき也

一千八百七十年十二月十三日

○同十六日巴里府に籠城今日既に九十日也昨日政

府よて市中各街に壁書乃布令あり其文意巴里府籠城既み九十日に及ぶ然とを府内抗抵の威力を損減ること無く食糧の穀類及獸肉未だ缺乏はれ事なし過日を布令はら如く政府貯藏所の穀類巨多あり衆庶安むしく均しく戰防戮力はる以下畧減○此程天氣朦朧連日の雨雪靄霧に郭外絶て戰鬪に警報なし雙方只兵を擁し空しく對陣はる此兩三日日夜時々郭外に砲聲を鳴響を聽く日誌は閱減はに是新た鑄造したは大砲を経験はる也と云此節記減を異聞なし只府内は困究物品の

缺乏日夜に迫り貧民究子の辻衢に叫號減るを聞き剩へ餓死の輩あは夜中市街更に寂寥萬家門戸を鎖し市中の燈明を稀にして實に巴里府の夜景を失へり○同十八日市中布令書に明十九日より府内諸方に城門通行を禁はると按は流に諸方の城門を籠城の始より鎖減をさだ義必然な事とを人民用便の爲に晝間其出入を許したり然はる普軍に間諜往々府内に出入し其事情は通報減爰に於て政府其通行を禁して軍務官及政府に免券あるに非はる其通行は免はるし也然れとを府内より敵方の間諜は通

汲ふ者猶制し難き故此度を斷然其出入を禁し門戸を鎖ひ至れり然時を斯く隱通に策實に行ひ難しと雖も日誌中の録は如く府内みせーンと云ふ河あり昨日此河中みせを刺ち硝燬に浮流は流を見たり之を採て檢は流み燬中み數通の書翰を籠めたり是即府内よ普軍ふ送ふ書翰みして府内の事情を記したる密書也斯れ如くして内通は輩往々ありて既み此河中み硝燬中の密書を得たは是迄兩度也と云此河の下流を即ち普軍に屯陣あれば巴里府内間諜を制し難き事斯の如し是普軍ふを軍の

初めよ老若男女童幼多く巴里府中に入れ府内は情態を仔細に見聞搜索せしむる也○一昨日以來使鳩府内へ内務全權乃密書を齎らし來れ其文ふ別政府ツ一ル縣に近郷都て普軍の爲に蹂躪せられ當縣の兵遠く退せられ内務全權ガンベタ氏をツ一ルを去て今ブ一ルゼ地に在りと報ひ○同十九日今日市中ふ市兵隊配賦の命ありと雖も他ふ異聞なきを以て爰ふ略は○昨今府内の石炭彌々缺乏の故を以て道路の燈明臺ふ燃點はをき瓦斯全く缺乏せり仍て石腦油を代用汲ふ途上更に朦朧たり○

今日より府内食糧の麵包大小麥の穀類其上品なるを
 ぞり既に盡き麵包の色少し薄黒を帯ひ薄鼠色とを
 言ふる色なり衆皆是を食は是即ち麥類の下品故
 なり然れども其味を更ふ異なる事無し○同二十日
 今日大統領ゼネラルドロシユ府内は市兵數大隊を
 引率して再び郭外に出陣せり○日誌中は十二月六
 日獨國は日誌を記載せり其文は曰日耳曼北部同盟
 國バビエール國王獨逸南北の同盟中の商議し普王
 を推して獨逸國帝の尊號を稱せしめんと謀り
 り乃ちバビエール王一書を造りてサキスル王に送

依其文は曰普王ギョーム往年善く内政を修め近年
 威武日耳曼各國の溢る威徳内外に奮ひ實に智勇兼
 備は王なるに宜しく之を尊號を稱せしむ可し之を
 依て余輩其尊號を奉し日耳曼各國は覇主獨逸帝を
 稱しめむことを謀ら公若し異存なくむに宜しく我
 日耳曼南北同盟各國と相謀りて斯く尊稱はるべしと
 云々以下略

一千八百七十年十二月六日 九イール判

按彼は是全く宰相ビスマルク氏に算し出る可
 し今普軍法國を蹂躪し其地分裂し己の版圖に入

内に多日耳曼各國南北同盟を併呑し其餘風を近隣
可及のし小弱を併呑せむ事謀る皆此ビスマール
氏の方寸よす出るを察せられたる○同二十一日今曉第
三字頃より郭外北部に當りて大いなる戦争を開き遠
く砲聲を響を聞きたる○昨夕市中へは布令今二十日
夜巴里府總督ゼネラルドロシユ市兵總軍を引率し
再び府内を發せり仍て明二十一日拂曉より戦争を
開る可し今夜府内を發せられたる軍大略一百餘大隊
也と云々十二月二十日夜十一字軍務全權スミッツ
よりに報告也○今夕刻市街へは布令十二月二十一

日夕二字軍務全權ゼネラルスミッツより軍中へ報
告其文ふ曰今朝拂曉より郭外モンパリアン寨よ
りノジアン寨城迄の内一面に戦争を開き今夕敵軍
の虜一百人を送輸せり大統領ゼネラルドロシユ軍
頭ふ在て指揮を司とれり云々○今日に戦争死傷甚
ち多くして午後數車の手負府内の病院に販來せり
然れども今夕未だ其勝敗を知らず○同二十二日我
十一月朔日也昨二十一日夜軍中報告の布令今朝よ
り終日間引續き諸方一時に戦ひを挑し我諸隊諸部
敵の砲火に中りゼネラルプリース重創を蒙り指揮

官一員討死せり戦争更み烈しく敵味方死傷殊に夥し味方死傷の人員未だ其數を知らずサンデニーの地を戦ひたる海軍兵殊に苦戦し其死傷亦夥し大統領今夜諸軍と俱に戦地を在て夜を徹せりと云々○十二月二十一日巴里府今日戦闘中大統領ゼネラルドロシユ敵軍の状態を點檢せむらためエタマゼウ九と共に出て戦地を點檢するに豈圖らむ敵の砲臺雨丸に下と有り立ち既に危ありしに幸ありて危難を遁ぎ坂路に就きたりと云○同二十三日日誌を閲するに去る十五日ウエ九サイ九縣普軍の本陣に於て

普王親らる一書を認め軍中に出せり其文は曰我獨逸各國の兵士中へ今度我軍出陣以來各國の兵威大いに奮ふる法軍之を爲す挫折しメツス縣落城の日敵は精兵舉げり我軍乃虜客と成れり爾來法國其都鄙に募りて人員を集め防禦の兵隊を編て再び我軍に抗せむことを謀り農商人民之を爲す役せられり國中田野荒蕪し國內生民多く飢色あり是れ我國に求めざる所にして我軍威を振起り出る所也敵軍は數に我軍に勝せりと雖も我軍威は熾なるを以て敵の將卒多く我國の虜客となは是れ我兵士の勳功を非

びして何そや今法國諸郡縣中より大に人民を募
 りて兵隊を組む地を穿る砲臺を築き我に抗せんと
 然るも今日我兵向ふ所敵なく砲臺全く我軍の掌
 中に陥りて是他無し汝將卒の威武勳功よし余深
 く汝諸勇の大功を賞感ひ今余軍中の總督將帥より
 下も兵卒に至迄其勤勞盡力の功績を深謝し而も我
 軍士成功の日ハ不日ニ在る試み見よ近日法の全國
 我軍門に來て旗旗を伏せむことを是我將卒無數
 の鮮血を草野に灌ぎし勳功鴻業を奏ひんば期也余
 深く軍中の將卒に誓ひ謝汝等の心衷此一期にあは

耳云々

一千八百七十年十二月六日法國ウエルサイル
 縣獨逸の本陣に於て布令

普魯斯國王ギユーム判

○同二十四日今日内務全權府内に布令は軍中報
 告書に曰昨日敵軍エブラール郷に潜匿し其砲臺
 を築造する者我先鋒の爲に襲撃せられ其戦争甚ち
 劇烈也此時我先鋒將帥ゼネラルブリース氏軍頭
 に進み其軍を指揮せしに飛彈ふ中り重創を蒙り
 今日戦争雙方共う手負討死最を夥しと云○去依十

五日法に縣府ボルドウに於て布令〔此ボルドウ縣と云き法國西南に部にしてバ九千ツク海の海岸に近し曩に巴里府籠城中法國別政府ボツ一九縣に建ふる然るに近日普軍追々諸郡縣に亂入蹂躪し殆むと別政府ツ一九縣の近方と襲來せり故を以て其別政府を再び轉換して遠く此ボルドウ縣を置る故に巴里府に勿論法國諸郡縣の事總て此縣に於て裁斷せり〕
〔波市街海岸港内〕に壁書を以て其文に曰戦争中假し別政府をボルドウ縣に建置る之を仍て當港に外國船の滯在入港を禁む今港内と碇泊の各國商船

今十五日よ來二十六日迄悉く當港出帆退船致次へし當縣の人民は諸方鉄道口に守禦に充らるへしと云々○今日日誌附録に曰昨日一商人貯藏せし鶏卵を賣るに其價一千の鶏卵を一千零貳拾三弗闌より賣せりと云一卵の價即ち一弗闌二十三散沈也〔我貨幣の三朱三百文余に當る〕其高價驚くへし然れとも人求めむと欲るを賣る者甚を稀とし之を輒く買ふことを得り○巴里府の籠城既にして一日府内の抗力良く弛し英氣大ひに衰へたり情々其事情を監察するは曩に政府恃りし所のものを専ら郡縣の民兵也若

郡縣の民兵敵の脊後を襲ひ進むて府外に近はらむ
と此の機を見は忽ち府内の兵を擧て掃攘の怒氣
を洩らし内外の法兵協力して敵の圍を破り進撃は
道路を開る事と欲せしは可し然は普軍は帷
幕此機を察し先ちて兵を配賦し頻りふ郡縣は援
兵を驅逐し其巢穴を撥き進むて別政府はツル縣
に迫りしは郡縣は民兵遠く遁逃せり爰は於て府
内に望し一朝は失し活路を求むは術なく掃攘を
奏は流の策なし大統領ドロシユ内外は民兵を帥ひ
出て郭外に陣はと雖も時氣寒冽連日は雪霜は曝は

れ兵卒之を爲て手足を傷り其身體を病しむ今法普
兩軍上に著眼し進退難易を察は流に一日無爲に
て一日は日を送るを城中一日は糧食を費し落城は
期一日近はくは近し是攻兵は籌策は一日毎に進近
し守兵は抗力は一日毎に費耗は流を也其利害得
失時々刻々を發見は明日は状態又推察はへし

法普戰爭誌畧卷之四終

